【専門教育科目/看護の展開/小児看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護学実習	NSP34_005	必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
東福寺 愛実	401	narumi.tofukuji	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	病棟及び外来等の実習を通して様々な疾病や障害、健康レベルにより医療を必要とする子どもと家族を総合的に理解し、健康上および成長発達上の問題解決に向けて、看護の思考と実践のプロセスを展開できる基礎的な知識・技術について学ぶ。看護実践では、子どもの日常生活の世話を含め、治療を受ける子どもの安全・安楽かつ成長発達を促す援助の実践について計画立案し、モデル人形を用いてロールプレイを実施する。また、子どもにとって必要なブレパレーションを考え、実践する基礎的能力を養えるようにする。カンファレンス時にはファシリテータの役割をとりカンファレンスの活発化を図る。実習は、対面および双方向型の遠隔授業方法で行う。				
学習上の助言	学内での演習が中心になるが、ケアの必要に応じた受けもちの子どもとの関わり方を考える時間にしたいたいと考えている。臨床実習指導者との意見交換をする時間を有効に活用して、看護計画に反映させること。				
教科書	・小児看護学概論 小児臨床看護総論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2022 ・小児臨床看護各論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2022 [2冊指定]				
参考書	授業で紹介した図書 他				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	小児看護の対象である子どもと家族に関心を向け尊重して関わることができる。		NS(1)(3)(4)		
②	健康障害をもつ子どもの状態に応じた看護を考えることが出来る。		NS(1)(2)(3)		
③	健康問題をもつ子どもの看護が実践できる。		NS(3)		
④	小児に関わる看護師の役割について理解できる。		NS(2)(4)(5)		
⑤	専門職を目指すものとして自覚を持ち病院のチームの一員として責任ある行動がとれる。		NS(4)(5)		
授業計画					
1. 実習目的 子どもとその家族のもつ健康問題を理解し、安全安楽な健康回復・健康の保持増進のために子どもの成長・発達過程に応じた援助を実践する基礎的能力を養う。また、実習全体を通して、小児看護の役割について思考することができる。					
2. 実習目標(実習要項参照)					
3. 実習内容 1) 事例を基にした看護展開と学内演習とする。 2) 小児科病棟の特徴と病児とその家族にかかわる看護師の役割の実際を、実習施設へ出向き学習する。					
4. 実習時期ならびに期間など 実習期間：3年後期、2週間					
5. オリエンテーション 学内オリエンテーション 日時：実習開始1日目(総合オリエンテーション後、各クールで実施) 場所：健康科学大学看護学部母性小児看護学実習室もしくは指定した教室 内容：実習の方法、実習記録、留意事項の説明、その他 持参するもの：小児看護学実習要項、筆記用具、事前学習レポート					
6. 具体的な実習方法 1) 1事例を基に、情報収集・アセスメント・看護問題の抽出・看護計画立案・看護計画実施・評価という一連の看護展開を実施する。 2) 看護計画実施は、2場面についてロールプレイ発表を行う。ロールプレイの発表時間は10分、質疑応答を5分とする。また、グループ内でピア・レビューを行う。 3) 看護師の役割を理解するために実習病棟へ出向き、病棟実習を行う。 4) 小児看護の特徴を理解するため、看護師国家試験想定問題を提示し、各自で小児看護について学ぶ。					
7. 単位の認定及び評価 出席状況、実習記録、レポート等による総合評価					
8. 実習記録および課題レポートの提出 課題レポート並びに実習記録の整理を行い、担当教員に提出する。					
1) 提出期限 実習終了時(第2週金曜日)16:00に指導教員に提出する。					

【専門教育科目/看護の展開/小児看護学】

2) 提出方法(①は返却予定) 実習オリエンテーション時に配布する「提出物確認表」を基に、紙ファイルに下記の看護記録類を綴じて提出する。							
9. レポートについて ①A4用紙、10.5ポイント、余白上下2.0cm、左右2.5cm、枚数1枚以上 ②表紙不要、テーマは20ポイントとして上部に記入し、学籍番号、氏名はその下、用紙右上に記載 ③オリエンテーション時にテーマを提示する。							
学習課題・学習時間(時間)							
実習期間中は、日々実践評価を行い、各受け持ち患児について病態生理・アセスメント・看護実践について修正等を考えて翌日の実習計画に反映する。 必要時間： 30時間							
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	10	0	60	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	20	0	25
	思考・推論・創造する力	0	5	0	10	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	0	0	5	5	10
	コミュニケーション力	0	0	0	5	10	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を見発見・解決する力	0	0	0	20	10	30	
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
レポート	①		与えられたテーマに対して、学んだことや調べたこと及び自分の考えをレポートに記述する。評価は、知識・技術力を5%、思考・推論・創造する力を5%とする。				コメントをつけて返却する。
	②						
	③						
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①	✓	提出内容および方法については指定されたようにファイリングすることができる。				ポートフォリオをつけて返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
その他	①	✓	体調を整え積極的に実習に参加し、チームの一員として患児とその家族に関心をもち実習を行う。また、病棟看護師の方々の臨床実践を見学し臨床における知・技を学ぶ。				カンファレンス時に講評する。
	②						
	③	✓					
	④						
	⑤	✓					
備考							
他担当教員							
教員の実務経験		担当する看護教員は、看護師として実務経験が5年以上有したものが担当する。					
実践的授業の内容		この科目は患児が受けている治療および家族の反応等を理解した上で、学生個人の特性を考慮しながら、実習指導者と相談し受け持ち患児を決定し実習を進める。また、担当教員の経験を元に、今後の病状経過を判断予測し、医師および実習指導者の病棟側としての考えや希望を理解しながら患児・家族と学生との関係を円滑に調整しつつ授業を進める。					
その他		小児看護学実習要項、並びに臨床実習要項(共通)を常に持参し、それらの実習要項にそった実習をする。 ・天候による交通機関の乱れにより、Teamsを使った同時双方向型授業を行う可能性もある。いつでもTeamsが使用できるよう準備をすること。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨する。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性はある。					